

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870105636
法人名	有限会社 公昌会
事業所名	グループホーム ひめやまの里
所在地	松山市山越3丁目6番15号
自己評価作成日	平成22年9月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成22年10月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・何よりも『私の家族だったら！』と、強い気持ちを持ちながら支援に取り組んでいます。
 ・一人ひとりに作成しているケアプランに沿って満足していただけるようなケアに取り組んでいます。
 ・正面には病院があるため、緊急時は早急に対応できるよう体制がとれており安心して生活していただけます。
 ・交通の便が良く家族がホームへ立ち寄りやすい。又近くにはスーパーが多くあり買い物しやすい環境です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●事業所では「これまでに比べて、この一年間、地域の方達と交流する機会が多かった」と振り返っておられた。地域の保育園との交流も始まり、保育園の運動会には数名の利用者が見学に行かれた。利用者の中には、園児の演技等を見て感激して涙された方もある。後日、園児達からお礼の絵や手紙をもらい、利用者はとても喜ばれ、居室に貼っておられる方もあった。
 ●職員それぞれが「係」に所属して、取り組みを企画したり、活動を計画してすすめておられる。「レクレーション係」の職員が中心となって「とりのこ用紙」に昭和の街の風景や家庭の様子を描いておられ、利用者がお若い頃に働いていた会社名やお店の名前、又、使っていた日用品や車、家族の様子等が、見て思い出されるように描かれていた。利用者も一緒に色を塗ったり、日々の中で職員が、話題にして懐かしい話を楽しませている。又、外部研修で学んだ口腔体操等を、午前中のリハビリの時間に採り入れたり、ご家族からいただいたお芋等は、職員のアイディアでスイートポテトやお餅にして美味しくいただくようだ。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる （参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています （参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある （参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている （参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている （参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている （参考項目：36,37）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている （参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：49）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている （参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている （参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

- 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム ひめやまの里

(ユニット名)

2階

記入者(管理者)

氏名

森 涼子

評価完了日

平成22年9月10日

自己評価及び外部評価表

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 事業所理念を皆が見えるところに掲示している。職員も理念について理解し毎日の介護につなげていくよう努力している。	
			(外部評価) 「基本的な人権の保護」「家庭的な生活」「生きがいのある生活」を事業所の理念に掲げて、玄関や居間に掲示されており、管理者は職員に「日頃から理念を意識してケアを実践しよう」話しておられる。管理者は「高齢者が多いこの地域の中で、事業所が認知症についての発信源となって、地域の方々に頼ってもらえるようなホーム」を目指していきたいと考えておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 季節ごとに施設行事を実施し、小学校のPTAコーラスや地域ボランティアの方の出し物など、皆で楽しんで交流している。	
			(外部評価) 事業所では「これまでに比べて、この一年間、地域の方々と交流する機会が多かった」と振り返っておられた。地域の保育園との交流も始まり、保育園の運動会には数名の利用者が見学に行かれた。利用者の中には、園児の演技等を見て感激して涙された方もある。後日、園児達からお礼の絵や手紙をもらい、利用者はとても喜ばれ、居室に貼っておられる方もあった。又、小学校PTAに声をかけて、事業所でコーラスを披露していただいたり、地域の方が踊りを見せてくださったり民話の語り等にも来ていただいた。事業所で行う夕涼み会には、地域の方を招き、ともに楽しく過ごされた。	この一年の地域の方々とのおつきあいをきっかけにして、地域との関係をより深めていかれてほしい。事業所では「まもるくんの家」の登録や今後も「認知症の勉強会」の開催に取り組んでいきたいと考えておられた。又、地域の広報がポストに入るようになっており、又、運営推進会議等も活かして地域の情報を得て、地域の方々とともに活動するような機会も積極的に作っていかれてほしい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 外部から講師を招き「認知症」をテーマにした勉強会を開き地域の方や協力病院スタッフ、ホームスタッフで認知症への理解を深めて身近に相談できる窓口があることも知らせている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)	
			運営推進会議を定期的開催している。(1回/2ヶ月)地域の方や市役所、入居者家族に日頃の状況を報告し、その都度テーマを決め取り組んでいる。参加して頂いた方からの意見はスタッフに報告しサービス向上や改善につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(外部評価)	
			会議では、事業所の活動や現状を報告されて、ご意見をうかがっておられ、その後で、ボランティアの方の踊りやコーラスを利用者と一緒に見てもらったり、お茶会等、楽しい時間を合わせて行い「参加してもらいやすい会議」の開催に工夫されている。昨年11月には、薬品会社の方が講師で「認知症の勉強会」を行っておられ、ご家族や地域の方の参加も多かったようである。地域の方とは、会議を通じて顔なじみとなり、近くのスーパー等でお会いした際にも声をかけてくださるようだ。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価)	
			身体拘束をしないケアに取り組んでいる。スタッフ間で事故防止に向け試行錯誤をし、日々努力をしている。	
			(外部評価)	
			事業所は建物の2・3階にあり、建物の玄関やユニットの入り口は鍵をかけず出入りできるようになっていた。時に利用者は、職員と他ユニットに出かけて、リハビリ体操やレクレーションを楽しまれることもある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 身体的虐待だけでなく、言葉の虐待についても接遇教育の中で注意していくよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している入居者がいるが職員全員が制度について理解できていない。今後勉強会など学ぶ機会を設ける。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時はゆっくりした口調で説明し途中で理解できているか？又は質問はないか確認しながら行なっている。改正等の際はお手紙と掲示等で知らせている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時、手紙、電話等で家族からの意向の収集を行い個人にあった援助をしている。又契約時に公的機関への苦情窓口がある事を伝えている。 (外部評価) ご家族の来訪は頻繁にあり、ご意見や要望は個々に聞き取るようにされている。書類や連絡事項等を伝える場合は、基本的に「手渡し」されており、口頭で説明を添えておられる。ユニット入口入ると「掲示板」が設置されており、ご家族へのお願いごとや伝言等を貼っておられた。ご家族から「字が小さくて見えにくい」というご意見があり、字体を大きくされたり、老眼鏡を自由に使えるようにされているユニットもあった。おおむね2か月ごとに発行される「ひめやま新聞」は、担当の職員が写真やエピソードを載せて作成されており、ご家族に行事や誕生日等の様子を伝えておられる。行事開催時にはご家族にも案内されている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に一回の職員会議などで意見交換又は提案をする機会がある。 (外部評価) 職員それぞれが「係」に所属して、取り組みを企画したり、活動を計画してすすめておられる。「レクレーション係」の職員が中心となって「とりのこ用紙」に昭和の街の風景や家庭の様子を描いておられ、利用者がお若い頃に働いていた会社名や店の名前、又、使っていた日用品や車、家族の様子等が、見て思い出されるように描かれていた。利用者も一緒に色を塗ったり、日々の中で職員が、話題にして懐かしい話を楽しまれている。又、外部研修で学んだ口腔体操等を、午前中のリハビリの時間に採り入れたり、ご家族からいただいたお芋等は、職員のアイディアでスイートポテトやお餅にして美味しくいただくようだ。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 出来る限り職員の希望は取り入れている。就業規則の作成や健康診断を実施し、体調管理には十分な注意を払っている。又長期休暇がとれるようにしたりスタッフ全員にアンケートをとるなどよりよい環境作りに努めている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修予定日の情報を仕入れ、順番に職員が参加できるよう勤務調整し、職員の質の向上に努めている。又外部から講師を招き勉強会を定期的開催している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 研修等で知り合う同業者との関係を大切にし、意見交換をしている。又同じ地域のホームの方達と意見交換をする機会を設けている。	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に事前調査を行い本人と家族と面会し安心感がもてるように心がけている。サービス開始前にスタッフ全員がアセスメントに目を通しその人が安心できる介護ができるよう努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○ 初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 事前調査で時間をかけお話を聞くようにしている。深く立ち入らない程度に家族環境をお伺いし、介護についての要望、不安や困っている事を聞き理解するように努めている。本人と、家族、ホームとの関係作りを心がけている。	
17		○ 初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居の際ホームの見学をしていただき、本人の意向と、家族の意向を聴取している。必要としている支援をくみとれるよう努力している。必要に応じて他の事業所と連絡をとっている。	
18		○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 入居者にもその都度意見を聞いたりし人生相談などもしたりし共に良い関係を築いている。	
19		○ 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 季節ごとの行事参加の声かけをしたり、ホーム内で何か変わったこと、伝えておくべき事ができた場合には家族への報告、連絡をし詳しく伝えることに努めている。	
20	8	○ 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 入居者の知り合いの方の訪問や郵便物などある場合には本人へ知らせ、又いつでも交流が出来るように面会時間の制限を設けていない。馴染みの場所との関係を保つのは難しい事もある。 (外部評価) ご家族が迎えに来られて外出に出かけたり、法事に行かれる方もある。地元から入居されている利用者が多く、お友達が訪ねて来られて居室で過ごされる方もある。又、かかりつけの病院にご家族と受診に行かれる際には、入院している知り合いを見舞って帰る方もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 入居者同士の雑談やレクリエーション等、一緒に何かをする時間を毎日設けている。楽しみをもてるよう声かけをしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス利用が終了してもこれまでの関係を大切に本人や家族の経過フォローをし支援が出来るように努めている。サービス終了後でも何か相談があればフォローし相談できるように努めている。	
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとり本人と話をしてその人がどういうふうに暮らしたいのかを聴いたりしてその人の希望通りに生活ができるよう努めている。	
			(外部評価) 年1回センター方式の「私ができることできないこと・私がわかることわからないこと」シートを用いてアセスメントを行ってられる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 事前調査や家族からの情報をもとに細かい部分まで把握するように努めている。本人との会話の中からこれまでの暮らしや覚えている事を聞き、把握に努めている。すべて理解しているわけではないが本人、家族に聞き一人ひとりが安心して暮らせるように努力している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとりの思いを大切にその人が過ごしたい一日を過ごせるように努めている。バイタルチェックを行ったり、体調管理をしたり一人ひとりをよく観察し心身状態の把握に努めている。出来る事などはしていただきその人が有する力を出せれるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人、家族の意向を聞き、主治医とも相談しながらカンファレンスを開いて意見を出しあっている。3ヶ月毎にモニタリングをし介護計画の見直しも行っている。現状に即した介護計画が作成出来るよう心がけている。	
			(外部評価) 介護計画は「ご家族・ご本人の意向を大切に」計画を立てるようにされており、アセスメントからの情報を計画につなげ、ご家族から聞き取ったご本人のケアや暮らし方の希望について要望や意見を介護計画に採り入れるようにされている。介護計画は、3カ月ごとにモニタリングを行い、継続して支援するか・見直すか検討されており、継続であれば、その3か月後に見直しを行ってられる。目が見えにくいような利用者には「聞いたり、雰囲気を楽しんでもらえるよう」な計画を立てておられたり、ご本人から「歩行練習に励みたい」という希望がある場合には、ご本人の意向を応援できるような計画を立てておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎日個別の介護記録でバイタルや体調の変化を記録し申し送りで詳しく報告をおこなっている。毎月の職員会議、カンファレンス時にケアプランに基づいたサービスが実施できているか？新たな課題等も話し合い介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 医療連携体制にて異常時の早期発見・対応ができるようにしている。又家族の同意を得て異常時に迅速に処置ができるよう前もって既往歴等、看護師にも知らせている。協力医療機関にはリハビリに通っている方もおられる。本人や家族の要望にはその都度対応し、ニーズに応えるように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の方の協力によりボランティアで音楽の演奏や歌、フラダンスなど入居者を支える地域資源のふれあいを大切にしている。又外での食事やお芝居も観に行ったり、日々の暮らしが楽しいものとなるよう心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○ かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			定期的にかかりつけ病院へ受診、定期薬の処方を受けられるよう支援している。受診時には普段の様子が分かるようにバイタル表や介護記録を持参している。又受診以外でも往診や電話での相談、説明にも応じていただき支援している。	
			(外部評価)	
			母体病院の受診は職員が同行され、以前からかかっている病院や専門医の受診は、ご家族が付き添っておられる。午後から母体病院のリハビリを受けに出かける方もあった。	
31		○ 看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			常に看護職と連絡がとれるようにしている。日常生活に変化があれば記録に残し様子が分かるようにしている。利用者が安心して生活できるように支援している。	
32		○ 入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価)	
			入、退院時には医師・看護師・家族・ホーム職員と情報交換し、医師からの病状説明などにも同席させていただいている。今後の事についても三者で相談できる場を設けている。	
33	12	○ 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			看取りや重度化した時のアンケートを入居時にとっている。重度化した場合や終末期になった時にはもう一度家族と話し合うようにしている。医師・看護師・ホームスタッフで症状の変化の度に協議を重ねている。	
			(外部評価)	
			入居契約時には「看とりについてのアンケート」をご家族に取るようにされている。「自然なかたちで」「痛みを緩和してほしい」というようなご意見もあるようだが「その時になってみないと分からない」と言われる方も多く、終末期のあり方については「その状態になった時」に、医療機関と話し合い決めるようになっている。「ここに居てもええんよね」と言われる利用者もあるが、ご本人とは最期の過ごし方等について、お話することはあまりないようだ。事業所ではこの1年間に、数名の利用者の看とりを経験されており、ご家族にも頻繁に来ていただきながらともに看取られた。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 事故発生時対応マニュアルを作成し、病院・医師・看護師へ連絡がつながる様になっている。入居者の毎日の体調や変化について細かく申し送り記録している。応急手当の方法をもっと身につけられるよう復習して訓練したい。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的に防災訓練を実施している。地域の方も参加され、電話のかけ方や消火器の使い方も消防署の方の指導を受けているが全スタッフが身につけているとはいえない。 (外部評価) 法人では喫煙者の雇用はしないことになっており、利用者も喫煙者はおられない。3月には、消防署の方に通報訓練の方法や口頭で「火元に近い人から避難させる」こと等のアドバイスをいただいた。又、水消火器を使って消火訓練も行い、運営推進会議の出席者もともに行われた。今年中にスプリンクラーが設置される予定になっていた。	利用者の状態に変化があったり、2, 3階に位置する事業所でもあり、今後、いろいろな災害や場面を想定して避難訓練を繰り返し、利用者や職員の安全と安心につなげていかれてほしい。又、災害時の地域の方との相互協力体制についても構築できるよう、運営推進会議等の機会を活かして、具体的な話し合いをすすめていかれてほしい。そのような取り組みをご家族にも報告されてはどうか。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりそれぞれ個性があるということを強く思いながらその人にあった生活習慣や希望など傾聴し自尊心を傷つけないよう、言葉かけをおこなっている。時と場合により言葉遣いを考えている。 (外部評価) 職員会議の後で「接遇」について勉強をされたり、日々の中で職員の対応について、気になるような時には管理者がアドバイスをされている。調査訪問時、昼食後に利用者同士がしゃべりをされているテーブルに、他の利用者も仲間に入れるようそっとお連れしたり、職員が中に入って利用者同士の会話を楽しくされている様子がうかがえた。ご本人の性格等も踏まえて、お一人で過ごす時間を大切にされていたり、男性の利用者が他の利用者に手を挙げて挨拶をしてくださることが、ホーム内のいい雰囲気を作っているようだ。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 本人にしたいことの意味を確認したり、選択肢の中から選ぶよう配慮している。思いや希望をうまく表せない方には興味のありそうな事を提案したりする。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどの ように過ごしたいか、希望にそって支援してい る	(自己評価) レクリエーションの時間等で入居者から何がしたいのか聞い たり自己決定を尊重している。個々で三味線を楽しめたり 職員と一緒に千羽鶴を折られたり自由に過ごせるよう支援し ている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価) 定期的に美容師に来てもらったり、個々の馴染みの化粧品や 髪留め、スカーフを身につけられたり適宜ひげ剃り、爪きり の介助を行なっている。更衣では好きな洋服を選んでいただ いたり生活の意欲が湧き楽しく過ごしていただけるよう支援 している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの 好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒 に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を使用し献立に季節感を出したり、利用者の嗜好を 取り入れたりしている。食事は職員と一緒に会話をしながら 楽しい時間になるよう心がけている。入居者と下準備や盛り 付け、食器拭き等お手伝いも出来るようにしている。 (外部評価) 職員は、朝のリハビリ時、一日の食事のメニューを利用者に 伝えるようにされている。食材は業者から届くようになって おり、利用者と職員で食材を一品々確認しておられる。利用 者が「炊き込みご飯が食べたい」と希望される時には、届く 材料でアレンジされることもある。又、おやつにお好み焼き やお餅等を作り、利用者のリクエストに応じておられる。時 には食材を止めて、ちらしずしを作ったり、バイキングで好 みのものを食べることができるよう日も作っておられる。 調査訪問時の昼食は、利用者、職員がそろって「いただきま す」と挨拶をして食事を始めておられた。介助が必要な利用 者のとなりに職員が座り、メニューや食材の内容を説明され たり、残っているものを案内しながら支援されていた。薄味 の食事に心掛けておられ、テーブルの上に用意されている ソースやしょうゆ、時にはマヨネーズ等をかける方もある。 職員がお盆を用意され、ご自分で下膳される方もおられた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習 慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個別に食事量を調節し、一人ひとりに合わせておにぎりや、 お粥、刻み、ミキサー、食べられない食材等職員全員が把握 できるように掲示し実施している。水分補給では食事以外に も飲用する時間をとっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを実施し出来るところは見守りし、一人ひと りに合わせて職員が介助している。定期的に義歯の洗浄を行 い口腔内を清潔に保っている。本人希望や口腔状態に応じて 歯科往診も行なっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄パターン把握の為、排泄チェック表を作り時間帯など、それぞれの入居者に合わせて対応している。排泄時間を声かけし、オムツ使用の入居者は定期的にトイレ誘導し排泄してもらえるように実施している。又トイレの場所が分かるように張り紙をしている。	
			(外部評価) おむつを使用されている利用者も、排泄のパターン等に沿って、トイレで排泄できるように誘導されている。調査訪問時には、食前・食後にトイレに誘導されている様子がうかがえた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 毎日牛乳や乳製品等を取り入れている。食物繊維を多めに摂取してもらうように家族の協力もしていただいている。薬の副作用などで便秘が考えられる場合も水分の摂り方や運動(腹部マッサージ)で改善できるように努力している。	
			(外部評価) 個人の体調に合わせてたり、シャワー浴、足浴などもその時に合わせて行っている。ゆっくり入浴できるようマンツーマンでコミュニケーションをとりながら支援している。安全の為に手すりや滑り止めマットを使用したり、機械浴が必要な方は使用している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 2日に1回程度入浴できるよう支援されている。入浴を嫌う方はおられないようであるが、好まれる方も少ないようであり、中にはおしゃべりを楽しみながら入る方もある。	
			(外部評価) 好きな音楽やラジオを聴いたり、テレビを観たりして、リビング、居室でもくつろげる環境作りをしている。愛用の寝具を使用していつでも休息できるようになっている。又リビングにソファがあり誰でも休めるようになっている。居室の温度・換気にも注意している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 好きな音楽やラジオを聴いたり、テレビを観たりして、リビング、居室でもくつろげる環境作りをしている。愛用の寝具を使用していつでも休息できるようになっている。又リビングにソファがあり誰でも休めるようになっている。居室の温度・換気にも注意している。	
			(外部評価) 好きな音楽やラジオを聴いたり、テレビを観たりして、リビング、居室でもくつろげる環境作りをしている。愛用の寝具を使用していつでも休息できるようになっている。又リビングにソファがあり誰でも休めるようになっている。居室の温度・換気にも注意している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) スタッフ一同で薬の情報を共有し、入居者一人一人に合った服薬支援を行なっている。正しく内服できているか複数で確認し、チェックするようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 毎日みんなでリハビリ体操をしている。入居者様に何がしたいのか聞いてレクリエーションをしているが何がしたいのか返答が無い事がほとんどの為、スタッフが楽しんで参加していただける事を考えている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 気候の良い時期にはスタッフと一緒に散歩したり近くのスーパーにお買い物に出かけている。家族様の協力で温泉やお買い物に行かれることもある。 (外部評価) 計画を立てて外出して楽しむ機会を作っておられる。コスタ北条の演芸を見に行かれた際には、利用者もとても喜ばれたようで、ホームに帰ってからも、演芸時の話題が続いたようである。ゴミ出しに職員と行かれる方、又、カットや食材の買い足しに、近くのスーパーに行かれることもある。	職員は「利用者個々の懐かしいような場所を訪ねる取り組みもすすめていきたい」と話しておられた。又、事業所では、利用者の身体機能の維持向上に努めておられるホームでもあり、日々ちょっと外に出て散歩するような機会を積極的に作っていかれはどうか。又、そのような取り組みをご家族に知らせ、ご意見をうかがってみてはどうか。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 近くのスーパーへスタッフと一緒に買い物に行き、支払いはスタッフと一緒にしている。皆で一緒に外出する際もスタッフと一緒に好きな物を買われている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をしたい時はいつでも自由に使ってもらっている。自分でかけられない方は訴えがあればスタッフがかけて本人に代わっている。手紙を書かれたらスタッフが投函している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			レクリエーションで入居者様と季節ごとの壁画の作成をし見える所に貼っている。季節の花をテーブルや洗面台に飾ったりしている。 (外部評価) ご家族のお宅の庭に咲いているお花を持って来てくださったたり、利用者と一緒に買い物に出かけた際に買った生花がテーブルに飾られていた。習字の作品や利用者と職員で一緒に作成した紙のお花等を壁に飾られており、事業所では「明るい雰囲気」作りができるような装飾に努めておられる。廊下で歩行練習をする方もある。ベランダでお花を育てるために土を買って来られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) テレビの前にソファを置いて気軽にくつろげる空間がある。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)	
			ホームでベッドとチェストは用意している。他は自宅で使用されていた使い慣れた物を持参していただいている。家族さんが花や人形、家族写真等を持って来られ、それぞれ居室は個々の生活にあった場所となっている。 (外部評価) 仏壇を持ち込んでおられる方は、毎日お茶をお供えできるよう職員がサポートをされている。千羽鶴を折っておられる方は、缶の中に折った鶴を色分けして整理されており、日付けと折れた鶴数の合計を書いておられた。調査訪問時には700匹ほどまで折れており、糸を通して仕上げることをご本人は楽しみにされていた。写真は、個々の居室にアルバムを作り、増やしていかれており、ご家族が来られた時には、利用者も一緒に見ながら、お話をされているようである。又、三味線を持って来られていたり、琴を置いている方もみられた。時々居室で練習をされている。遠くに住まわれているご家族が時々来られて泊まって帰られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) エレベーターや要所には手すりが設置されている。又浴槽には滑り止めマットを使用。ホーム内は段差もなく安全に過ごせる。居室のベッドも高さが入居者により合わせられるようになっている。居室の入り口には目線に合わせた高さで名前を大きく貼ったり、トイレも大きく表示したり、出来るだけ自立できるよう工夫している。	